

千葉県袖ヶ浦福祉センター保護者説明会(県・事業団共催)における主な御意見(概要)

※→以下は県又は事業団からの回答

(H29.3.25)

○地域移行とは、自分の出身の市町村に帰るということなのか。

→(事業団) 移行先についてはご本人の意思の尊重が前提となり、ご家族の方や関係機関に協議も必要となるので、必ずしも出身地に戻るということではない。ただ、更生園の利用者さんの中には意思表示が困難な人もいますので、くみ取る努力が必要となってくる。

○更生園の定員縮小について伺う。定員縮小は現在、あまり進んでいないが、あの目標は第三者検証委員会が現場をあまりわからずに掲げたものである。利用者数が減らないのにはニーズ、理由がある。第三者検証委員会の出した最終答申に過度に縛られることなく、移行を無理に進めないでほしいところであるが、そもそも答申の位置づけはどのようなものか。

→(県) 確かに最終答申で掲げた定員縮小の達成は集中見直し期間中には困難だと認識しているので、期間を延ばし、施設整備等も今後検討していく。グループホームなども見ていただき、検討していただきたい。定員縮小の目的は、少人数化により支援の細かいところまで目が届くようにするためである。いずれにせよマッチングには時間がかかるので、関係機関と連携して進めたい。

○虐待をなくすための縮小というが、定員数が決まるのが次期指定管理期間の終了する平成34年度末だとすると、そこから施設の建て替えを行うと今から10年かかる。それでは時間がかかりすぎる。目標は定員の縮小そのものではなく、虐待をなくすことである。県として、定員を縮小できなかったらどうするのか。地域の施設は人手不足で新たな利用者さんの受入れは難しいと思われるが、今後施設は創設するのか。今後5年の計画はあるのか、あるとしたらどんなものか、教えてほしい

→(県) 虐待防止については、パーソナルサポーター事業やモニタリングで現在も担保している。その下地としての地域移行である。県としては強度行動障害のある方に対応したグループホーム整備への補助や支援への補助を行っている。施設整備はあまり進んでいないが、その理由については今後検証していきたい。今後5年の計画については、これから検討していきたい。

○見直し進捗管理委員会の委員の方々は民営化に積極的だが、民営化することで支援は改善すると考えておられるのか。民営化すると支援員さんが増えるなどして、支援の質が良くなるということなのか。

→（県）平成２８年度付帯意見は今年度末時点での意見であり、最終評価でない現状の評価なので今後の民営化についてはまだ検討していない。

○民営化についてははっきりしてくれないと保護者は納得しない。周囲の人からも、民営化が決まったらどうするのかと言われている。民営化するかどうかについて、はっきりと言ってほしい。

→（県）平成２８年度付帯意見は見直し進捗管理委員会の委員の方々の意見であり、何よりも大切なのは支援の質である。民営化とならないよう、指定管理者と協力しながら頑張っていきたい。

○いくつか伺いたい。

- ①平成２８年度付帯意見の中で、「県立としてのレベル」という文言があるが、それはどの施設で実現されているのか。
- ②「袖ヶ浦福祉センターの見直しに関する進捗状況の評価」について、保護者も高齢化してきているのに、環境整備で「保護者の協力を得ている」と書くのはどうかと思うが、いかがか。
- ③養育園に入ってもらっているパーソナルサポーターについて、サポーターさんの資格や、導入の効果、実績はどうなっているのか。
- ④平成２８年度付帯意見の中で、更生園にも相談支援アドバイザーに入ってもらっているとあるが、保護者の了解は得ているのか。
- ⑤「通過型」という文言があるが、更生園は介護保険料の支払い義務がないがグループホームには介護保険料の支払い義務があるなど、経費がかかる。そのあたりの費用負担の問題については現在は放置されていないか。
- ⑥他にもグループホームを利用するには、高額な利用料がかかるが、数年前に家賃補助もなくなったと把握している。移行に対しての金銭的な支援はどうなっているのか。

→（県）

- ①委員が想定している「県立施設としてのレベル」については、おそらく中間意見の２ページ下から４行目や最終行、３ページ３行目のあたりに記載されているが、定義についてはこちらも確認したい。
- ③パーソナルサポーターは一人ひとりに寄り添った相談支援者であり、当初は虐待防止が目的だったが、今は支援への助言や地域移行についてもアドバイスを行っている。
- ④更生園の相談支援アドバイザーには、寮全体の支援を見てもらい、

アドバイスをもらっている。

- ⑥家賃補助はなくしていない、制度として存続している。また、移行の初期には別途、補助制度もある。

→（事業団）

- ⑤「通過型」は本人の意思を尊重した上での話であり、介護保険の支払いについては仰るとおりだが、「放置」はしていない。

○高齢関係の制度にも「通過型」の概念があり、誤解されやすいのではないかなと思う。表現をもっと考えた方が良いと思う。

○そよかぜ荘利用者の保護者だが、そよかぜ荘での投薬が多く、以前と比べると表情がぼんやりと変わってしまった。薬は少なめにしてほしい。

→（事業団）他の方からも同じ意見を聞くことはある。精神科の診断では家族も支援員も同席できるので、そこで話し合っていくべきだと考えている。本日は欠席しているが、更生園の施設長にも伝え、周知していきたい。

○薬を多く飲まないで他害のリスクを減らす方法をぜひ考えてほしい。

○10月の見直し進捗管理委員会の議事録を見ると、委員会で「税金の無駄遣い」と発言した委員がいるが、職員の頑張りを削ぐことになるので、そういうことは言わないでほしい。以下、3つ質問する。

- ①食事に関する報道があったが、なぜそのような発言があったのか知りたい。委員の実体験なのか。食事中的アクシデントも他の施設よりも多いと思うが、どういうことか。
- ②移行が進まないと言われているが、実際に他施設に行ってみると空きがなく、肢体不自由施設ならば空きがあると言われる状況である。つまり施設が満員だからだと思うが、何かしているのか。
- ③更生園の利用者の難しさは目を離さないで見ているということだと思う。ずっと見ているのは大変であり、支援員も緊張を強いられる。他害のある人を継続してやることによる仕事量の多さも、移行が困難である理由の一つだと思うが、その評価をきちんと検証し施設的、人的な補助をしないと、移行は進まないのではないかな。

→（県）

- ①平成28年11月、12月に実施したモニタリング調査で委員の方々も利用者さんと同じ食事をしたが、そこで冷たい食事があったことによる。

- ②施設整備をするときの国庫補助制度があるので、そこで優先的に採択したり、養育園の定員縮小に伴う障害児の受け入れ施設として福祉型障害児入所施設２か所の建設の補助をした。
- ③移行について努力していることは理解している。だが強度行動障害のある方を受け入れているのは更生園だけではなく、他の施設でも障害の重い方を受け入れている状況もあるので、そのあたりについても踏まえて、今後検討していきたい。